
弁当喰らいの暴食漢

オテオテ君神拳伝承者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

弁当喰らいの暴食漢

【Nコード】

N1236BA

【作者名】

オテオテ君神拳伝承者

【あらすじ】

半額弁当

それに命を懸ける狼達の中に、新たなる狼が加わる。

伊藤 裕之、半額弁当争奪戦に参上！

第一話 暴食漢の誕生（前書き）

パトスのほとばしがとまらなかつた

第一話 暴食漢の誕生

朝食、寝坊により食パン一枚を走りながら食べる

午前中の授業、体育で長距離走。国語の抜き打ちテストで脳の糖を使用、テスト中に腹が鳴る

昼食、購買に向かうも、あまりの混みように怖じけづくも特攻。揉まれ続けながらも売り場に辿り着くも、めぼしい物はほぼ買われ尽くされていて、残ったパンを二個と牛乳を購入して食す。腹は満たされず

午後の授業、睡魔に耐えきれずに眠りに堕ちる。席の利か、先生に見つかることなく眠ることができた。目を覚ますと腹の減りを感じた。授業を得るごとに腹の減りが加速していくような感じがした

放課後、帰りに何か買って食べようとスーパーに寄る。財布を見るのと、野口が一人に硬貨が数枚。今月は少し使いすぎたようだ。腹が減った。仕送りは明後日。

今日の夕飯について思考する。安く済ませるには、カップ麺。しかし、この腹は満たされないだろう。贅沢は言ってられないと、カップ麺を購入。硬貨がすべて無くなった。

帰宅、夕飯時には少し早い、腹が減って堪らないので、カップ麺に湯を入れて啜る。腹はあまり満たされなかった。

食後、宿題をする。英語の長文和訳、数学の問題を2ページ。

少し時間がかかったが終了。小腹が空く感じがするが、家に菓子類は無い。

気を紛らわす為にゲームをする。

今日は妙に腹が減る。

しかし、我慢だ。ゲームだ、ゲーム

二時間くらいやったが気は紛れない。むしろ腹は減っていく。

腹の音がした。

ああ、腹が減った。何か買ってこようか、しかし無駄遣いは……

……
腹の虫が合唱を始めた。

スーパーに来た。なるべく安く量がある菓子を買おう。

菓子売り場に向かう。その途中に、何故か目を奪われた弁当コーナーに。

三割引き、割り引き、わりびき……

半額になるまで待ってみようか。買えなかったらそれでいい。

弁当の種類は、鯖味噌弁当、天津飯、ハンバーグ弁当、オムライス、焼肉弁当

見ているだけですます腹の虫が活発になってくる。しかし、まだだ。半額になったのを食うんだ。

そのまま、弁当コーナーを離れて菓子コーナーで待機する。

ああ、腹が減った。口の中に唾が溜まる。味を想像する。

鯖味噌の、味噌と鯖。

天津飯の、卵と餡。

ハンバーグの、肉汁とソース。

オムライスの、卵とケチャップ。

焼肉の、タレと肉。

胃が締め付けられるような空腹感、腹の虫が騒ぎ出す。

我ながら何て節操が無いんだと思ってしまう。

ふと、扉が開く音が聞こえた。

何だ、この音は……

キョロキョロと周りを見る。周りの客は気付いていないらしく、菓子を手に取って見ている。

気のせいかな。そう思い、菓子に目を移す。

菓子を棚に戻して周りを見る。店員が扉の方向にいくのが見えた。恐らく半額シールを貼ったのだろう。携帯の時間を見ると、9時。もう貼られていても不思議ではない。もう少しだ。もう少し待って、店員が戻ったと思えるまでだ。そしたら、何の躊躇いもなく弁当に向かえる。

唾の溜まりを飲み干す。

そろそろか。そう思い、体を弁当コーナーに向ける。

直後、扉の閉まるような音が聞こえた。

その途端に、後ろから人が走ってきた。

何事かと驚く。そして弁当コーナーのほうに行く。

そこは戦争現場だった。

まさか、半額弁当を取りあっているのか。

そう思った時、腹がギュウツと鳴った。そして、押し寄せてくるこの空腹感。

腹が、減った。腹が、減った。

あの弁当を、旨そうな弁当を、

喰いたい、喰いたい、喰いたい！

その衝動に、身体が動く。弁当コーナーに向かって走り出す。周りの物があまりにもゆっくりに感じられる中、身体を弁当コーナーに突っ込ませる。

目の前に数人いる、邪魔だ。

両手で押し退けて、商品棚に向かう。すると、目の前に顎髭を生やした男が拳を振りかぶってこちらに飛び掛かってくる。

手を出してくるのか、上等だ。

男の拳をかわして、顔を殴り飛ばす。男は3メートル程吹き飛び、倒れた。こんなに力があつたつけ、と一瞬思ったが、どうでもいと切り捨てる。

腹が減った、邪魔をするな。

進路上には、茶髪の女に太った大男、ツンツンの髪の男子学生がいる。

邪魔だ、退け！

茶髪の女が、こちらの接近に気付くが、あまりにも動きが遅い。今は、女だろうが関係はない。女が動く前に腹に飛び蹴りを喰らわせる。

女は吹き飛び、商品コーナーに叩きつけられる。

着地すると、今度は大男がこちらに向かって拳を振るう。

それを横に動くことで避け、その隙に懐に潜りこんで腹に右ストレートを叩きこむ。

大男はそれで動きを止める。直後、大男を回し蹴りで吹き飛ばす。見ると、何人か弁当を取ったようだ。

商品コーナーに走る。弁当に手を伸ばす者がいる。許さん。

手を伸ばした奴が、弁当に触れる前に、走り寄ってそいつの側頭部を殴り飛ばす。こちらに向かって何人かが飛び掛かる。

飛び掛かって来た一人の顔を思いつき張り飛ばす。

蹴りを放ってきた奴の脚を受け止めて、その後殴り飛ばす。

その衝撃に、飛び掛かってきた残りの人が巻き込まれて吹き飛ばす。

そして、弁当に手を伸ばす。しかし、左右から拳が飛んでくる。

それをかわして、その拳の主達の頭を掴んでぶつけさせる。後ろを見ると、まだ数人こちらに向かってくる。

なるほど、こいつらは弁当に手を出す奴を先に攻撃してくるのか。

腹の虫が大合唱をする。視界がひろがり、頭が冷えて、身体が動く。

腹が減った。

邪魔をするな。

喰わせろ。

この弁当を。

邪魔をするなら。

お前らごと。

喰わせろ。

喰わせる。

喰わせる！

周りの人間の動きが限りなくゆっくりに見える。
そんな中で、動く。

殴り飛ばす。

蹴り飛ばす。

張り飛ばす。

殴り上げる。

蹴り上げる。

突き上げる。

殴り落とす。

蹴り落とす。

叩き落とす。

気がつくと、周りの人間達は倒れて、すぐ横に商品コーナーがあった。弁当は二つ残っていた。ハンバーグ弁当と、オムライス。動き回ったせいか、無性に腹が減った。

その二つを持ってレジに向かった。二つ合わせても、野口さんならお釣りがくる。

いい買い物だ。箸をつけてもらった。

ゆっくりと家で食べよう、そう思いスーパーを出た。

しかし、何だったんだろうか、さっきのは。

腹が減って、よく動けるようになって……
あの雰囲気のせいだろうか。今思うと、あれはやり過ぎだったんじゃないかなと思う。

でも、いいか。半額弁当が二つも買った。明日の夕飯はこまらなさそうだ。

そう考えて、家路についた。

そんなこの俺、伊藤 裕之は、この事をきっかけに、半額弁当争奪戦の中に身を投じていくことになる

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1236ba/>

弁当喰らいの暴食漢

2012年1月3日00時56分発行